

令和7年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

税のあり方

奈良県立十津川高等学校 2年 滝 美空

私たちの日常生活には、常に税という言葉がついていると思います。「消費税」。公平に課税される税であり、聞き馴染みの多い税だと思います。しかし、私は、もともと「税」に良い印象を持っていませんでした。そのうえ、税は本当に納める必要があるものなのかとも思っていました。なぜなら、消費税が令和元年十月に10%へ引き上げられた時です。それからというように、「税金が高い」と言う大人達の声が多く耳に入るようになりました。当時十一歳だった私は、税についての知識がなく、なんとなく税は良いものではないという思考になっていたからです。

中学三年生のある日、私は、授業で税に関するある一本の動画を観ました。頭の中には、「難しい」この一言がよぎりました。高校二年生になり、授業で税に関する動画を観ました。その動画は、以前観たものと同じ動画でした。中学三年生の頃の当時は、「税は難しい」そう思っていました。しかし、今観ると与えられたものが大きく変化しました。「税は必ず納める必要があるもの」。そう気付いたからです。もし、税金がない世界だったら毎日不安を抱えたまま生活していただろうし、現在の日本のように整備の整った国に、なっていなかったと思います。また、税には、多くの種類があり耳にしたことのない名前が私には、沢山あります。しかし、一つ一つの役割を担うそれぞれの種類の税があるからこそ、現在の日本があると私は、思います。

「難しい」。この言葉は、これからの未来で「税」について触れた時、これからも必ず頭の中によぎる言葉になると思います。しかし、これからも日本は、発展し続ける国になると思います。また、安心して生活を過ごせていることや整備の整った下で生活を送れているのは、税金がきちんと納められているからだだと思います。税は難しいけれど少しずつ税について触れていくことで、新しい発見や気づきそして税に対しての知識が増えました。私は、これからも発展し続ける日本の為に、そしてこれからの未来も安心して生活を送れるように、税についての知識を少しずつ高めながら生活していきます。